

2014年(平成26年)8月1日(金曜日)

## ものづくりと福祉考える

川崎区で「Jカフェ」30人が参加

約三十人が参加した。講師の富士レークホテル(山梨県富士河口湖町)の井出泰済社長は、段差のない客室でトイレ、浴室に手すりを設けるなど「人にやさしいホテルづくり」の取り組みを紹介。客や同伴者に直接意見を聞いて手すりの位置を調節したり、年齢などによって料理を刻んだりの改善をしたという。

また、障害者も「旅の目的は温泉だ」と分り、ホテル業界では珍しい入浴介助サービスにつなげたとも。当事者からニーズを訴えむことの大切さを訴えた。

川崎市のものづくりと福祉の橋渡し＝シヨイント(J)＝を合言葉に、市内中小企業と福祉の専門家をつなぐ「Jカフェ」が、東海道かわさき宿交流館(川崎区)で開かれ、

Jカフェを主催するのは、市民団体「かわさきJプロジェクト+」(プラス)。市の地域雇用創造で始まった福祉製品開発の「かわ

さきJプロジェクト」のメンバーら五人が、二〇一〇～一三年の事業終了後も活動を続けるためにつくった。

秋には自助具の情報紹介やオーダーメイドを仲介する「ウェブ版自助具工房」を用意する計画。メンバーの水谷武司さんは「市の事業として継続はされなかったが、福祉施設、中小企業双方に築いた信頼関係を生かし、社会の役に立っていきたい」と話している。

(山本哲正)